

令和元年度第4回江別市生涯活躍のまち整備事業地域再生協議会会議録（要点筆記）

日 時：令和2年1月23日（木） 18:00～19:10

場 所：野幌公民館 研修室5

出席委員：北川裕治会長、岡本収司委員、新田雅子委員、藤本直樹委員、
田原久美子委員、岸本佳廣委員、谷川幸雄委員、腰原久郎委員、
小林徹男委員、赤川和子委員、栞重理香委員（計11名）

欠席委員：金子正美委員、尾形良子委員、岩村ヒロ子委員、
大鹿琢委員（計4名）

事務局：企画政策部西田次長、政策推進課堂前課長、毛利主査、天明屋主査

その他：株式会社北海道二十一世紀総合研究所 河原岳郎氏

傍聴者：1名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）地域再生計画（案）について

事務局から説明

- ・資料1：地域再生計画（案）
- ・参考資料：特定地域再生支援利子補給金

【質疑】

○北川会長

地域再生計画の黒字の部分は、昨年6月25日の当協議会で報告済みであり、国から認定を受けている内容である。朱書きの部分は、特定地域再生支援利子補給金を活用するため、当協議会で内容を協議したうえで、国に提出することになっている。既に認定されている部分については変更できないが、朱書きの部分について質問、意見はないか。

○赤川委員

18ページの「(オ) サービス付き高齢者向け住宅の整備」の「②事業の内容」には、「入居希望者の意向を反映して建設するコーポラティブ方式を採用」と記載されている。入居希望者のニーズと合わせたいということだが、どの程度反映することを考えているのか。

○岡本委員

既にサービス付き高齢者向け住宅の入居を検討している方を対象に、「コー

ポラティブの会」を設立し、これまで2度ほど札幌市の月寒で運営しているサービス付き高齢者向け住宅の見学会を実施しており、その上で事業者が今回想定している部屋の大きさなどについて意見をいただいている。今後も会員の皆様とのアンケート等でのやりとりを継続しながら、実際の整備に反映させていく。部屋に限らず、共有の多目的ルームのあり方や動線などサービス付き高齢者向け住宅全般にわたって意見をいただき検討していく。

○赤川委員

入居希望者から意見をいただくということだが、間取りについては数パターンあるのか。

○岡本委員

サービス付き高齢者向け住宅について、現段階では固まっていないが、設計段階で単身用や2人用の部屋など複数パターンを想定している。来月以降、図面を含めて会員の方に報告し、あらためて意見をいただきたいと思っている。

○田原委員

朱書きの部分ではないが、障がいを持った子どもが住み慣れた地域に住むことは理想である。13ページ下段に「障がい者就労継続支援A型事業所の建築着工及び利用開始時期は、令和2年度以降を予定」と記載されているが、具体的な着工場所は決まっているのか。

○北川会長

各施設については、施設拠点地域内に建設する。平面図は最終案として次回示すことになる。

○田原委員

内容はパンやお菓子作りと記載されており、イメージとしては例えば、野幌の菓子工房笑くぼのような施設になると推測される。卒業した子どもは市外に出ることが多いが、可能ならば地元で生活してほしい。

○藤本委員

追加部分の利子補給について、実際の借入金額はいくらなのか。最大0.7%は十分メリットはあるのか。

○岡本委員

整備全体でいくと数十億単位の総事業費となり、市中借り入れなどの借入も相当程度必要となるため、支援期間は5年間と限られているが、この支援は有難い。

○藤本委員

金融機関の上限により違うと思うが、市中金利の目安は何%なのか。

○腰原委員

会社の信用度や返済計画など、変動もあるので一概に何とも言えないが、

1%や3%のこともある。

○北川会長

他に質問、意見はないか。

○各委員

なし

○北川会長

案のとおりに国に申請するということが良いか。

○各委員

(了)

(2) 生涯活躍のまち形成事業計画（素案）について

事務局から説明

- ・資料2：江別市生涯活躍のまち形成事業計画（素案）
- ・資料3：「江別市生涯活躍のまち形成事業計画（素案）」と「(仮称)江別市生涯活躍のまち整備事業事業計画書」の事業内容の比較表

【質疑】

○北川会長

形成事業計画は、年度内の策定を目標にしている。パブリックコメントを1か月間行うことになるので、その後協議会にて承認していただき、議会で説明した後に策定といった流れとなる。

素案について、質問、意見はないか。

○新田委員

1ページ「1. 計画の趣旨・位置付け」に「構想の基本的な考え方としては、平成28年に実施した江別版「生涯活躍のまち」構想策定時のアンケート調査で、50歳代以降の札幌市への転出が多くなっていることを踏まえ」と記載されているが、これは、今回の形成事業計画策定のために実施したアンケート調査とは別のものだと思う。この根拠はどこにあるのか。

次に、6ページの「2. 課題」の人口動態の説明には、転出全体の状況については触れられているが、50歳代の札幌市への転出については言及されていないので、この整合性は問われないのか。「札幌市への転出は71人の転出超過」とは記載されているが、年代等が分からないので、市民が目にした時にわかりづらいのではないのか。

○事務局

この事業の出発点とも言うべき構想策定時の、平成28年度に実施したアンケート調査であり、昨年7月に実施したものと異なる。実際の転出状況とし

て、平成28年度に実施した調査では、50歳代以降の世代では札幌市への転出が多いという結果であったことからそのように記載させていただいた。

○北川会長

平成28年度に策定した構想には、50歳代以降の札幌市への転出が多いという調査の結果を載せている。新田委員の意見としては、形成事業計画の前段にこのことを記載しているので、後段にも記載した方が良いというものであり、書き方を工夫し修正したいと思う。

他に質問、意見はないか。

○谷川委員

16ページの「■子育て支援」の「あそびのひろばの開催」について、大麻北町にはやぶさ運動広場があり、今後更地となる予定だが、この場所との関わりはあるのか。

○事務局

主に教育委員会が担当している部分になるが、今後のはやぶさ運動広場の利活用と、この素案に記載している「あそびのひろば」については直接の関連はない。ただし、エリアが整備された時には連携する可能性はある。

○藤本委員

12ページの追加した部分の「(ウ) 住民の「足」の確保」について、内容に異論はない。しかし、タイトルは「確保」と言い切っているが、内容は「検討」という文言があるので相違している。

次に、2ページの「5. 推進体制」は、前回の内容を踏まえてまとめていただいた。江別市と地域再生推進法人の関係について、江別市から日本介護事業団への「支援」は分かりやすいが、双方向の矢印の「連携」は、あまり深い意図がないまま記載しているように感じられる。支援実施の中では当然、連携関係があると思うので、江別市が策定した形成事業計画に対して地域再生推進法人からの片矢印で「推進」や「実施」と記載しても良いと思う。最終的には事務局の判断に任せたい。

○北川会長

前段のタイトルのみを見ると「確保」と記載している。例として、「住民の移動手手段の検討」に変更するなどが考えられる。金子会長代理とも相談するが、この件について、他の委員から意見はあるか。

○岸本委員

足の確保は必要条件であり、サービス付き高齢者向け住宅だけではなく施設全体と地域住民との交流の中では欠かせないものだと思う。タイトルに「確保」としながら説明の最後が「検討」と記載されているのには違和感を感じた。

○北川会長

事業者の提案の中で既に「検討」という言葉があったので、このような形で記載させていただいた。

○谷川委員

アンケートでも交通についての意見が多くあった。移動手段の確保について「検討」と記載しているが、検討した結果、確保できなかったとしないようにしてほしい。

○藤本委員

移動手段の確保は1つの手段で完成できるようなことではないと思う。いくつかの手段等を行うことが現実的である。現在の状態で将来確実にできるかわからないものを「確保」と書くことはいかがなものか。各委員に納得していただければ、「移動手段の確保について」であると弱いので、「確保に向けて」であれば前向きに感じられるのではないか。

○岡本委員

提案させていただいた事業計画書と同じ印象にしたいという事業者の意見を反映させていただいた一方で、アンケートでの移動手段の確保についての意見は、江別市内に住んでいる方が日常生活の中で感じていることだと思う。事業者として、生涯活躍のまちのエリアと市内のまちなかとのアクセスについては考えているが、市外とのアクセスや市内バス路線などのレベルについては対応できない。前回、北川会長からも話があったが、それについては、交通政策全般で考えていただく話だと理解している。

事業者として、整備するエリアに人が来ていただかなければ事業が進まないと考えており、何らかの形で確保していくので、エリアと市内のまちなかとの行き来の中で必要な移動手段を確保するという書き方であれば対応できる。

○谷川委員

病院など高齢者の動く範囲の交通の便を良くすることを念頭に置いて作っていただくと良い。

○北川会長

市として交通政策は重要な問題なので、計画の中では岡本委員や藤本委員の意見を踏まえ文言をまとめたいと思う。

○事務局

推進体制の矢印の関係は、国から示されているイメージ図を参考に作成した。地方自治体と地域再生推進法人との関係性の中では、自治体から地域再生推進法人への「支援」の矢印、双方向に「連携」という形で示されているので、今回そのような形で作成している。江別市と地域再生推進法人が形成事業計画の

作成や事業の実施についてそれぞれ連携を取りながら進めるというイメージを図式化している。

○北川会長

双方向の矢印の表記は国が提示したイメージであるが、文字としては連携の他にも「連携推進」や「連携実施」などの言葉もあるので、書き足した方が分かりやすいように思う。

認定された地域再生推進法人なので、「連携」は記載しなくても当然行われるものであるが、「推進」あるいは「実施」と記載するなどの修正については、金子会長代理と調整したいと思う。

他に質問、意見はないか。

○各委員

なし

○北川会長

今回の意見を踏まえて金子会長代理と相談して修正を行い、パブリックコメントを行うということで良いか。

○各委員

(了)

3 その他

○事務局

本日検討いただいた形成事業計画の素案については、本日の意見を踏まえて、北川会長、金子会長代理と調整を行い、パブリックコメントを実施したいと思う。現時点でのパブリックコメントの期間については、2月21日から3月23日の32日間で実施することを事務局で検討している。市内各所に計画案を設置して、併せて市のホームページにも掲載する。パブリックコメントの結果は次回の委員会で報告する。

次回第5回協議会は3月下旬の開催を予定している。再度日程調整をさせていただく。

4 閉会